



秘書課 ☎66♦1161

大場市長の任期満了に伴う市長選挙は平成6年2月6日に実施され、前県会議員の鈴木克昌氏が当選しました。

鈴木市長は、開かれた市政を目指して「出前型市民対話」を提唱し、市の幹部とともに各地区に出向き、市民と行政に対する意見交換をする「ふれあい対話」を実施しました。また、ムダを排した行政改革の実施や情報公開を推進しました。

在任中は、大塚町でのリゾート開発や情報ネットワークセンターの建設に取り組んだほか、新市民病院やごみ焼却場の建設、蒲郡駅南再開発、鉄道高架、下水道整備などを推進されました。なかでも、競艇場ナイターレースの実施にはご尽力され、年々厳しくなっていた市財政にとって好機となりました。



情報ネットワークセンターのオープン(右:鈴木市長)

また、鈴木市長は、高度情報化に向けた動きを加速させ、平成8年には核となる施設の建設を決め、高度できめ細かな行政サービスの実現と、海をテーマにした科学館として平成11年7月20日、情報ネットワークセンター・生命の海科学館をオープンさせました。

さらに、全市民的な情報化の検討が行われ、市ホームページの開設や市役所内LANの導入などに積極的に取り組まれました。特に、公式ホームページは県内の市町村では最も早く平成7年10月に立ち上げ、携帯電話専門サイトも構築しました。その結果、本市における行政分野の情報化推進状況は急速に進展しました。

平成11年10月「地方の生きた声を国政の場に届けたい」と2期目の任期半ばで辞職されましたが、5年8カ月にわたり継続した開発事業や新規事業への先進的な取り組みのほか市政の大胆な改革を行い、市政の発展に多大な貢献をされました。



365日の地球史

毎年この時期は、カレンダーを目にする機会が増えますね。行く年のものをめくって過ぎた日々を思いをはせたり、新年のものを用意しつつ春夏の計画に思い巡らせたり。

この機会に、ちょっと変わったカレンダーを皆さんにご紹介しましょう。その名も「地球カレンダー」。46億年という長い長い地球の歴史を365日に縮めたものです。

地球カレンダー

お正月、地球はまだ生まれたばかり。隕石が絶え間なく降り注ぎ、地表はしゃくねつのマグマに覆われています。七草も過ぎてそろそろ成人の日というころ、月ができます。小惑星が地球に衝突し、はじき飛ばされた

破片が集まって月となったのです。やがて地球は少しずつ冷めていき、雨が降り海ができたのが節分の頃。桜のつぼみがほころぶころには、深い深い海の底で生命が誕生していたようです。その後紅葉が色づきはじめるまで、生命はずっと小さな単細胞のままでした。私たちの遠い祖先、最初の魚が登場したのは11月、勤労感謝の日のあたりです。やがて生物は陸上に進出し、師走の中ごろ栄華を極めた恐竜たちは、クリスマスには絶滅してしまいます。私たち人類の祖先が2本の足で歩き始めたのは、大晦日のランチタイム。紅白歌合戦が盛り上がりつつきたころに火や道具を使い始め、産業革命を迎えたのは新年2秒前のことでした。

1年の大切さ

新年のカレンダーをめくりながら、地球の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょう。1年の短さと大切さが、一層実感されるかもしれません。

